

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-静岡与一(1階)		
所在地	静岡県静岡市葵区与一二丁目5-19		
自己評価作成日	令和2年8月15日	評価結果市町村受理日	令和2年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2294200858-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2294200858-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあり、ホームの前の川では鴨が数羽泳いでいます。桜の季節は近隣の病院の庭へお花見へ行ったりと散歩にも適した立地にあります。建物も日当たりが良く布団は毎週天日干しをしています。冬も暖かく日光浴しております。職員も明るくご家族様からも「明るくていいわね」と言って頂け、ボランティアや地域の保育園とのふれあいも行事に取り入れています。新型コロナウイルスの予防からホーム内でできる楽しい事を追及しています。季節ごとの壁画作りを入居者様と一緒に楽しめ活気のある生活ができる様に取り組んでいます。食事にも力を入れ一汁三菜の献立で毎月うなぎ丼、お刺身、天ぷらがありとても好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と介護支援専門員を筆頭に「明るい」「元気」満載で、朗らかな声が響く事業所です。「毎食写真を撮ることから色彩や皿の配置にも気配りできる職員に育つ」といったエビデンスが結果に実ることが日常に溶け込み、職員の発意も活発です。例えば、法人内他事業所の職員意見を管理者が取り上げて「たみのさと作品展～輝くあの時～」が開催されたり、静岡新聞社主催の「美しい富士山をいつまでも」へ職員が利用者作品を応募して新聞に掲載発表される等、内外で存在をアピールしており、新規入居者家族の声で一番多いのは、「色々見たが此処が一番雰囲気がいい」というのも頷けます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念の「生き生き生きる」に基づき、入居者様、ご家族様、職員共に生き生きとした生活が出来る様にしている。毎日の朝礼でも理念等を唱和、職員からの「good&new」を発表してもらい、朝から楽しい気持ちで始める様に心がけている。	ゲームや釣り、コンビニエンスストアの新商品ニュース、子どものこと等、職員からの「GOOD&NEW」のスピーチから一日が始まり、「生き生き生きる」ためのスターティングに余念がありません。入浴拒否の利用者が「入れた」となれば内線で速報が入るほど、ベクトルも明確です	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	例年であれば、地域の保育園やボランティアと行事を通して入居者様との交流をしているが新型コロナウイルスの予防から家族以外の来客はご遠慮いただいている。	裏手に新しく家が建ったこともあって防災訓練には「かなり長い間ベルが鳴ります。ご迷惑を～」 「垂直避難をします。安倍川が氾濫する危険が～」といったアナウンスとともに、事業所の駐車場が一時避難所であることポスティングして、地域との関係づくりに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長が民生委員も兼務しており運営推進会議に参加していただき、認知症についても理解していただいている。地域の防災訓練の避難場所として駐車場を活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催していたが新型コロナウイルスの影響から中止し、報告する予定だった内容を議事録として作成、ご家族、地域包括、介護保険課、自治会長へ郵送している。意見交流を行い、現場に活かしている。	運営推進会議は市役所に「コロナ禍の運営推進会議の開催について」問い合わせした結果、3月から書面開催となり、所内で話し合った内容と2ヶ月の活動内容を議事録にまとめて行政を含むメンバーに郵送、大変丁寧に実施しています。	運営推進会議の開催とメンバーの出席は条例下の取組みとして、次のことを期待します。→資料を郵送するだけでなく、FAX送信書やはがきを同封するなどして、そこから意見を集める
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課、地域包括には毎回、運営推進会議の案内と議事録、身体拘束廃止委員会の議事録を提出している。	2年前に実地指導がありました。口頭並びに書面指導はありませんでした。管理者は行政と良好な関係を築こうと「月1回程度は窓口に行かなくては～」と考えていますが、コロナ禍で市役所からは「郵送にしてください」と申し渡され、現在はそれに従っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をうたい、現在までに身体拘束をした事例がない。5、11月に身体拘束をしないケアを継続するよう職員に内部研修を行っている。5月は精神薬の過剰な内服がないか皆で確認した。身体拘束廃止委員会を運営推進会議と合わせて実施している。	法人が毎年新卒者を定期採用しており、1ヶ月間の新入社員研修を実施、既存写真には定例研修会が年2回、「身体的拘束等適正化委員会」は隔月開催と丁寧に取り組むほか、ワークシートを通じて自ら振り返る機会もあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、職員へ5、11月と虐待についての研修を行い、職員同士、虐待につながる様な行為があった場合はお互い注意しあい、管理者にも報告するように伝えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは数名利用されていた事例もあり、関係者とは定期的に連絡、報告、相談していた実績がある。今後も利用されている方や必要になった場合は地域包括支援センターや家庭裁判所に相談し活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった場合は必ず施設見学をして頂き、相談等も常に受け付けている。契約前に入居者様、ご家族様に十分説明を行い、質問、疑問等があればその都度説明し、ご理解していただき不安がなく契約できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの影響から面会の自粛をお願いしている。任意でご家族に動画や写真をメールで送り大変喜ばれている。電話連絡が増え、その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。毎月入居者様の写真を付けたお手紙にてご様子を報告している。	LINE上に登録くださった6家族はリアルタイムに状況が掴め、遠方の家族は逆に情報が増えています。また直接「会いたい」と熱望する家族には、マスクや消毒剤をプレゼントし、玄関先での面会を実現させており、家族アンケートでは総じて職員の親切な対応が評価されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会および毎朝の朝礼時など常時職員からの提案、改善を聞き、話し合い意見をまとめホーム長会議にて提案したり、ホーム内の事では実施できるようにしている。年に1回職員と面談を行っている。	申し送りノートは入居者用、業務用に分け、情報共有を確かなものとしています。「(利用者の意向にそって)湯たんぼしつつ冷房をかける」「(入浴拒否者には)汗をかいたら、との発想から草取りをしよう」と、職員の大胆で親身な発想やアイデアが日々放出しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の年1回の表彰では職員個人の実績、勤務状況等を評価し、やりがい、向上心を持って働ける環境作りに努めている。また、年2回の自己評価、現場評価、テストを行い昇給等の参考にしている。27年度よりキャリアパスを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会において、テーマを決めて勉強会の時間を設けている。また、職員の意欲向上の為、介護福祉士会の出張講座を利用している。今年度より新卒採用3年以内以外の職員も本部研修に参加できるようにした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響前は介護福祉士会の出張講座の活用や、他のGHの事業者と交流を持ち、運営推進会議にはお互いに出席し意見交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、申し込みがあった時点からご要望や困りごと等お聞きし、入居者様、ご家族様のご希望に沿うよう考慮している。入居後も日中、夜間問わず、入居者様の些細な言動を見逃さないようにし、安心できる様、信頼、環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談、見学の際、ご家族様の困りごと、不安な事、ご要望をお聞きしながら関係性を作っている。入居後も様子や介護についての方向性など報告、相談しながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後、ご本人と面談、アセスメントを行い、必要とされる支援の把握をしている。担当の居宅、施設の介護支援専門員や介護事業者から情報を提供していただき初期の対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の出来る事、好きな事を活かし役割をもって暮らしを共にしている。掃除、洗濯、調理、買い物等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様、ご家族様の想いを真摯に受け止め、絆を大切にしより良い関係が継続できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルスの予防から静岡県の指針に合わせ家族以外の来客はご遠慮いただいている。以前は入居者様、ご家族様には馴染みの方、ご友人等にもご面会に来て頂けるようにお伝えしている。面会時間も特別制限はしていない。	アイドルや演歌歌手が好きな人は居室いっぱいにポスターを貼ったり、また1階は新しいテレビを購入したところYouTubeが見えるようになって動画を楽しんだり、利用者の中には新聞のテレビ欄をみて「新婚さん！いっらしやい」や「寅さんシリーズ」を継続して観覧する人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1, 2Fもイベント行事やレクリエーション等で交流し、入居者様同士が楽しく関わりを持てるようにしている。その中で入居者同士の助け合いも見られる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービスの提供や相談支援に努めている。以前入居していた方の奥様がボランティア活動をしており、夏祭りには一緒に参加して下さっている。今年度は夏祭りはボランティアをお呼びしませんでした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から情報を集め、好き嫌いこだわること、生活歴を把握しケアに生かしている。年齢をとりだんだん気持ちを伝えづらくなるが今まで共に過ごしてきた情報やご家族と相談し喜んでいただけるケアに努めている。(野球、風船、青い野菜、加工品、宝塚、園芸など)	入居2年前まで草野球の名手だった人はテニスボールで職員とキャッチボールを100球程するなか、どうかするとカーブを投げる日もあります。また、青い野菜がNGなことが入居後にわかり、抜くようになったら急に食欲が増すようになった例もあり、本人本位の支援が充実しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅、施設サービスをご利用されていた方は担当の介護支援専門員や介護事業者から情報を提供して頂いている。また、入居者様やご家族からも聞き取りをし、今までの生活ペースや好きな事を崩さないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から個々の様子を観察し、記録することで、出来る事、出来ない事を把握し、工夫したら出来る事等、申し送りを口頭やノートを活用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会、カンファレンスで入居者様、ご家族様の要望を職員間で共有している。アセスメント・モニタリングの為、意見交換を行い、介護計画書に反映している。	2ユニットの内の1つの計画作成担当者を管理者が担っています。2表の「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)」はその一が浮き彫りとなり、誰の介護計画書なのか一目でわかるもので、利用者一人ひとりのことをよく観察して、理解しようとする職員の熱心さが伝わります。	担当者欄に家族が加わるような支援を含んでいくことも一考ください。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個人の経過記録、バイタル表等に記録している。気づいた点、支援における注意点、変更点がある場合は職員間で話し合い、申し送り、ノートにて共有し実践しカンファレンス時経過を報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様のニーズに合わせ、受診の送迎、買い物等の支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの予防から自粛しているがドライブは時々行っている。コロナ影響前は近隣のボランティア・保育園に行事と一緒に参加して頂いた。町内の行事に参加や買い物も近隣へ行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、往診が月2回ある。往診以外も状態変化があった場合はかかりつけ医に連絡、相談、連携を図り、指示や結果をご家族様へ報告している。総合病院の内臓疾患の検査時にはご家族も一緒に受診に行き今後の方針を話し合っている。	従来のかかりつけ医に月1回の訪問診療をお願いしている人が1名、それ以外の17名は協力医の訪問診療を月2回受けています。管理者または介護支援専門員が必ず立ち合い、支援経過、申し送りノート、医師専用シート(FAX受診)に記録を残し、職員間で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、状態変化にいち早く気づき必要時応じて随時、訪問看護、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。週1回訪問看護がある為、些細なことも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況把握の為、面会に行き、病院関係者より情報提供して頂いたり、主治医からの病状説明がある場合はご家族様と一緒に立会いさせて頂き退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りおよび医療連携に関する指針」を作成し、入居時にご家族様に説明している。重度化しつつある入居者様にかかかかりつけ医とご家族様と相談しながら、全職員で状態の把握、情報の共有をし支援している。退去される方の殆どが看取り介護を行っている。	看取りとなっても「これまでの延長線上だから」何か変えるのではなく「このような嗜好がある人だから、こうしていこう」という姿勢で職員一丸となって取組んでいます。お見送りの後はダイジェスト的に思い出語りをするとともに職員アンケートもおこない、想いや方針を重ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が法人の基礎研修を受けている。応急手当を行う時も指導し、看護師やかかりつけ医からの指示、指導もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施している。消防より水消火器をお借りしたり、消防士の避難訓練の立会い時には避難方法のアドバイスも頂いている。夜間想定や水害の垂直避難も行っている。	年3回の防災訓練は毎年メニューを変えていますが、消防署から「大地震からの火災をやってほしい」とリクエスト的な指導があるため、そこは必ず押さえています。食糧備蓄は3日、意識して菓子類等ローリングストックを備えており、それを含めると5日分程あります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しその方の生活歴を含め、言動には注意し支援している。不適切な言動が見られるときはその場で管理者が指導している。全職員、法人の基礎研修にて接遇について学びおもてなしの気持ちでお客様第一主義を常に意識している。	「やや不十分さを感じる人もいるが、概ね職員のマナーとエチケットは安心できる」と管理者が太鼓判を押している、また「5分おきに記憶が途切れてしまうことを考慮して声をかけてほしい」と指導しているだけあって、「天気がいいですねエ」などと職員の声掛けが頻回です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日や行事食、外出等を決める際は必ず入居者様と相談したり、日々の会話からの嗜好を聞いておき参考にしている。新型コロナウイルスの影響前は個々の日常品を購入時はご本人と一緒に行き自分で選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、個々のペースに配慮してご希望に沿った支援をするように努めている。その日の体調にも合わせ、起床時間や食事の時間をずらしたり等もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びや毎朝の整容を入居者様に聞きながら行っている。ご家族が購入される際にもアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事食のメニュー決めや食事の下準備から食器やお盆拭きと片付けもお手伝いをして頂いている。毎食配膳前に1食分を写真を撮り味も見た目も一定レベルを保つよう記録している。献立に毎月うなぎやお刺身天ぷら手作りおやつが必ずあり好評。	献立表には1ヶ月に1週間ほど空白があり、「カキフライが好きな人がいるね」「暑い日が続くから冷やし中華はどう？」と利用者と職員とで話し合っってメニューが決まる日が設けられています。管理者がうどんを打つ日もあり、デザートバイキングも盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分等の記録をしている。飲み物も個々の嗜好に合わせて数種類用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助をして実施している。就寝前には義歯を洗浄剤にて消毒している。食事前には口腔体操を行い口腔機能の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録・把握し、トイレで排泄出来るように誘導している。夜間帯等状態に合わせて無理のないようオムツにて対応している。	他所から移設してきた利用者は「失禁が～」と聞いていましたが、実際支援が始まるとリズムをつかんだ声かけで失禁が防げることがわかり、現在は布ばんつに向上しています。介護計画書にはトイレ誘導一つとっても具体的な記載があり、標準的ケアが推進されていることが伝わります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供。日々のメニューも根菜や繊維質の食材を使用し食後のトイレ誘導など自然排便を促している。体操や運動を取り入れている。毎日の申し送りで排便の有無を確認し個々に合わせてかかりつけ医からの便秘薬で排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴を基本としている。排泄で汚れてしまった場合など、状況に応じて優先的に入浴している。入浴剤も数種類用意し入居者様を選んで頂いている。一番風呂に入りたい方への希望も叶えゆったり入浴して頂いている。	清潔の目安を週2、3回として、季節には柚子や菖蒲のお風呂で楽しんでいます。職員と長話する人もいて、入浴がコミュニケーションの場ともなっています。以前には浴室から出るとき、自然に赤い靴を独唱する利用者がいましたが、現在歌をうたう人はいません。	BGMを流す等、楽しさを付加させることを職員間で話し合うことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団は毎週天日干ししている。生活習慣や体調に合わせて居室にて休んで頂いている。居室の温度・湿度にも注意しエアコンや加湿器の使用にて調整、エアコンが嫌いな方もいる為、冬は湯たんぽなど使用し安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報がいつでも確認できるようにファイリングしている。薬剤師が管理し薬の変更など投与の目的、量、副作用などの注意点を申し送りノートへ記載し職員へ周知させている。症状の変化が見られた場合はかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日や行事食や外出等入居者様と相談したり、日々の会話から嗜好を聞き取り考慮している。日常生活の中でも洗濯、食器拭き等のお手伝いやレクリエーション、作品展など楽しく行って頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や駐車場での日光浴をよく行っている。新型コロナウイルスの影響前は月1度の外出支援や企画外出をして楽しみを創っていた。数名ご家族と定期的に外出される方もいらっしゃる。	恒例のいちご狩りに行けず、苦肉の策でネットに洗濯ばさみで仕立てたなんちゃっていちご狩りを駐車場で催しました。庭のブルーベリーを皆で摘んでジャムにしたり、畑や園芸に親しむほか、季節の風景を眺める降りないドライブ、週2日程の散歩(真夏は避ける)も継続しています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者様が金銭を持つ事はしていないが、ご本人様の希望に応じて、ご家族様と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と定期的に電話でお話されている方もいる。新型コロナウイルスの影響から管理者がご家族に動画や写真をメールで送り大変喜ばれている。電話連絡が増え、その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに落ち着いて生活できるように職員の言動も含め綺麗な生活環境を整えている。季節感が分かるようにレクリエーションにおいて季節の作品作りをし各居室やホールへ飾っている。	コロナ禍となり、手すりの消毒は1日2回程度はおこなうよう努め、換気扇6か所が24時間廻っていて、エアコンをかけたまま窓を開けることも普通のこととして定着しています。また家での管理も大事として職員には除菌水を上限なく配付し続けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごすテーブルの配置等、状況に応じて変えている。殆どの方がホールにて過ごすことが多い。仲の良い方と会話を楽しまれたり、テレビを見たり、デッキにて日光浴を楽しまれたりと思思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやベット等を持ち込んで頂き危険のない様に設置している。好きな写真やご自分の作品等も飾っている。	レイアウトは症状に応じて随時変え、暮らしやすいよう支援しています。CDを沢山集めている人、天皇陛下の写真を貼って眺めている人、一晩中テレビをつけ放しにするのが習慣の人と、様々その人なりの居室の過ごし方がありますが、大半の時間はリビングで過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前のプレートを設置、トイレは絵を貼ったり迷うことなく自立した生活が出来るように努めている。職員も過剰に介護しすぎる事がない様に出来る事はご自分で行って頂き生活リハビリを意識して対応している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200858	
法人名	特定非営利活動法人 シンセア	
事業所名	グループホームたみの里-静岡与一(2階)	
所在地	静岡県静岡市葵区与一二丁目5-19	
自己評価作成日	令和2年8月15日	評価結果市町村受理日 令和2年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2294200858-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2294200858-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和2年9月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅街にあり、ホームの前の川では鴨が数羽泳いでいます。桜の季節は近隣の病院の庭へお花見へ行ったりと散歩にも適した立地にあります。建物も日当たりが良く布団は毎週天日干しをしています。冬も暖かく日光浴しております。職員も明るくご家族様からも「明るくていいわね」と言って頂け、ボランティアや地域の保育園とのふれあいも行事に取り入れていきます。新型コロナウイルスの予防からホーム内でできる楽しい事を追及しています。季節ごとの壁画作りを入居者様と一緒に楽しめ、活気のある生活が出来る様に取り組んでいます。食事にも力を入れ一汁三菜の献立で毎月うなぎ丼、お刺身、天ぷらがありとても好評です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者と介護支援専門員を筆頭に「明るい」「元気」満載で、朗らかな声が響く事業所です。「毎食写真を撮ることから色彩や皿の配置にも気配りできる職員に育つ」といったエビデンスが結果に実ることが日常に溶け込み、職員の発意も活発です。例えば、法人内他事業所の職員意見を管理者が取り上げて「たみのさと作品展～輝くあの時～」が開催されたり、静岡新聞社主催の「美しい富士山をいつまでも」へ職員が利用者作品を応募して新聞に掲載発表される等、内外で存在をアピールしており、新規入居者家族の声で一番多いのは、「色々見たが此処が一番雰囲気がいい」というのも頷けます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念の「生き生き生きる」に基づき、入居者様、ご家族様、職員共に生き生きとした生活が出来る様にしている。毎日の朝礼でも理念等を唱和、職員からの「good&new」を発表してもらい、朝から楽しい気持ちで始める様に心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、地域の保育園やボランティアと行事を通して入居者様との交流をしているが新型コロナウイルスの予防から家族以外の来客はご遠慮いただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長が民生委員も兼務しており運営推進会議に参加していただき、認知症についても理解していただいている。地域の防災訓練の避難場所として駐車場を活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催していたが新型コロナウイルスの影響から中止し、報告する予定だった内容を議事録として作成、ご家族、地域包括、介護保険課、自治会長へ郵送している。意見交流を行い、現場に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課、地域包括には毎回、運営推進会議の案内と議事録、身体拘束廃止委員会の議事録を提出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をうたい、現在までに身体拘束をした事例がない。5、11月に身体拘束をしないケアを継続するよう職員に内部研修を行っている。5月は精神薬の過剰な内服がないか皆で確認した。身体拘束廃止委員会を運営推進会議と合わせて実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、職員へ5、11月と虐待についての研修を行い、職員同士、虐待につながる様な行為があった場合はお互い注意しあい、管理者にも報告するように伝えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは数名利用されていた事例もあり、関係者とは定期的に連絡、報告、相談していた実績がある。今後も利用されている方や必要になった場合は地域包括支援センターや家庭裁判所に相談し活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった場合は必ず施設見学をして頂き、相談等も常に受け付けている。契約前に入居者様、ご家族様に十分説明を行い、質問、疑問等があればその都度説明し、ご理解していただき不安がなく契約できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの影響から面会の自粛をお願いしている。任意でご家族に動画や写真をメールで送り大変喜ばれている。電話連絡が増え、その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。毎月入居者様の写真を付けたお手紙にてご様子を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会および毎朝の朝礼時など常時職員からの提案、改善を聞き、話し合い意見をまとめホーム長会議にて提案したり、ホーム内の事では実施できるようにしている。年に1回職員と面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の年1回の表彰では職員個人の実績、勤務状況等を評価し、やりがい、向上心を持って働ける環境作りに努めている。また、年2回の自己評価、現場評価、テストを行い昇給等の参考にしている。27年度よりキャリアパスを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会において、テーマを決めて勉強会の時間を設けている。また、職員の意欲向上の為、介護福祉士会の出張講座を利用している。今年度より新卒採用3年以内以外の職員も本部研修に参加できるようにした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響前は介護福祉士会の出張講座の活用や、他のGHの事業者と交流を持ち、運営推進会議にはお互いに出席し意見交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、申し込みがあった時点からご要望や困りごと等お聞きし、入居者様、ご家族様のご希望に沿うよう考慮している。入居後も日中、夜間問わず、入居者様の些細な言動を見逃さないようにし、安心できる様、信頼、環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談、見学の際、ご家族様の困りごと、不安な事、ご要望をお聞きしながら関係性を作っている。入居後も様子や介護についての方向性など報告、相談しながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後、ご本人と面談、アセスメントを行い、必要とされる支援の把握をしている。担当の居宅、施設の介護支援専門員や介護事業者から情報を提供していただき初期の対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の出来る事、好きな事を活かし役割をもって暮らしを共にしている。掃除、洗濯、調理、買い物等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様、ご家族様の想いを真摯に受け止め、絆を大切にしより良い関係が継続できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルスの予防から静岡県の指針に合わせ家族以外の来客はご遠慮いただいている。以前は入居者様、ご家族様には馴染みの方、ご友人等にもご面会に来て頂けるようお伝えしている。面会時間も特別制限はしていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1, 2Fもイベント行事やレクリエーション等で交流し、入居者様同士が楽しく関わりを持てるようにしている。その中で入居者同士の助け合いも見られる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービスの提供や相談支援に努めている。以前入居していた方の奥様がボランティア活動をしており、夏祭りには一緒に参加して下さっている。今年度は夏祭りはボランティアをお呼びしませんでした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から情報を集め、好き嫌いこだわる事、生活歴を把握しケアに生かしている。年齢をとりだんだん気持ちを伝えづらくなるが今まで共に過ごしてきた情報やご家族と相談し喜んでいただけるケアに努めている。(野球、風船、青い野菜、加工品、宝塚、園芸など)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅、施設サービスをご利用されていた方は担当の介護支援専門員や介護事業者から情報を提供して頂いている。また、入居者様やご家族からも聞き取りをし、今までの生活ペースや好きな事を崩さないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から個々の様子を観察し、記録することで、出来る事、出来ない事を把握し、工夫したら出来る事等、申し送りを口頭やノートを活用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会、カンファレンスで入居者様、ご家族様の要望を職員間で共有している。アセスメント・モニタリングの為、意見交換を行い、介護計画書に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個人の経過記録、バイタル表等に記録している。気づいた点、支援における注意点、変更点がある場合は職員間で話し合い、申し送り、ノートにて共有し実践しカンファレンス時経過を報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様のニーズに合わせ、受診の送迎、買い物等の支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの予防から自粛しているがドライブは時々行っている。コロナ影響前は近隣のボランティア・保育園に行事に一緒に参加して頂いた。町内の行事に参加や買い物も近隣へ行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、往診が月2回ある。往診以外も状態変化があった場合はかかりつけ医に連絡、相談、連携を図り、指示や結果をご家族様へ報告している。総合病院の内臓疾患の検査時にはご家族も一緒に受診に行き今後の方針を話し合っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、状態変化にいち早く気づき必要時応じて随時、訪問看護、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。週1回訪問看護がある為、些細なことも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況把握の為、面会に行き、病院関係者より情報提供して頂いたり、主治医からの病状説明がある場合はご家族様と一緒に立会いさせて頂き退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りおよび医療連携に関する指針」を作成し、入居時にご家族様に説明している。重度化しつつある入居者様にかかりつけ医とご家族様と相談しながら、全職員で状態の把握、情報の共有をし支援している。退去される方の殆どが看取り介護を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が法人の基礎研修を受けている。応急手当を行う時も指導し、看護師やかかりつけ医からの指示、指導もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施している。消防より水消火器をお借りしたり、消防士の避難訓練の立会い時には避難方法のアドバイスも頂いている。夜間想定や水害の垂直避難も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しその方の生活歴を含め、言動には注意し支援している。不適切な言動が見られるときはその場で管理者が指導している。全職員、法人の基礎研修にて接遇について学びおもてなしの気持ちでお客様第一主義を常に意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日や行事食、外出等を決める際は必ず入居者様と相談したり、日々の会話からの嗜好を聞いておき参考にしている。新型コロナウイルスの影響前は個々の日常品を購入時はご本人と一緒に行き自分で選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、個々のペースに配慮してご希望に沿った支援をするように努めている。その日の体調にも合わせ、起床時間や食事の時間をずらしたり等もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びや毎朝の整容を入居者様に聞きながら行っている。ご家族が購入される際にもアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事食のメニュー決めや食事の下準備から食器やお盆拭きと片付けもお手伝いをして頂いている。毎食配膳前に1食分を写真を撮り味も見た目も一定レベルを保つよう記録している。献立に毎月うなぎ井お刺身天ぷら手作りおやつが必ずあり好評。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分等の記録をしている。飲み物も個々の嗜好に合わせて数種類用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助をして実施している。就寝前には義歯を洗浄剤にて消毒している。食事前には口腔体操を行い口腔機能の向上に努めている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録・把握し、トイレで排泄出来るように誘導している。夜間帯等状態に合わせて無理のないようオムツにて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供。日々のメニューも根菜や繊維質の食材を使用し食後のトイレ誘導など自然排便を促している。体操や運動を取り入れている。毎日の申し送りで排便の有無を確認し個々に合わせてかかりつけ医からの便秘薬で排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2, 3回の入浴を基本としている。排泄で汚れてしまった場合など、状況に応じて優先的に入浴している。入浴剤も数種類用意し入居者様に選んで頂いている。一番風呂に入りたい方への希望も叶えゆったり入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団は毎週天日干ししている。生活習慣や体調に合わせて居室にて休んで頂いている。居室の温度・湿度にも注意しエアコンや加湿器の使用にて調整、エアコンが嫌いな方もいる為、冬は湯たんぽなど使用し安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報がいつでも確認できるようにファイリングしている。薬剤師が管理し薬の変更など投与の目的、量、副作用などの注意点を申し送りノートへ記載し職員へ周知させている。症状の変化が見られた場合はかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日や行事食や外出等入居者様と相談したり、日々の会話から嗜好を聞き取り考慮している。日常生活の中でも洗濯、食器拭き等のお手伝いやレクリエーション、作品展など楽しく行って頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や駐車場での日光浴をよく行っている。新型コロナウイルスの影響前は月1度の外出支援や企画外出をして楽しみを創っていた。数名ご家族と定期的に外出される方もいらっしゃる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者様が金銭を持つ事はしているが、ご本人様の希望に応じて、ご家族様と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と定期的に電話でお話されている方もいる。新型コロナウイルスの影響から管理者がご家族に動画や写真をメールで送り大変喜ばれている。電話連絡が増え、その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに落ち着いて生活できるように職員の言動も含め綺麗な生活環境を整えている。季節感が分かるようにレクリエーションにおいて季節の作品作りをし各居室やホールへ飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごすテーブルの配置等、状況に応じて変えている。殆どの方がホールにて過ごすことが多い。仲の良い方と会話を楽しまれたり、テレビを見たり、デッキにて日光浴を楽しまれたりと思いい思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやベット等を持ち込んで頂き危険のない様に設置している。好きな写真やご自分の作品等も飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前のプレートを設置、トイレは絵を貼ったり迷うことなく自立した生活が出来るように努めている。職員も過剰に介護しすぎる事がない様に出来る事はご自分で行って頂き生活リハビリを意識して対応している。		